

東京大学教養学部学生自治会公認自主ゼミ
「未来シナリオとリーダーシップ」
(履修のためのガイダンス Version 1.0.
Updated for Autumn Semester/2021)

2021年10月
原田 武夫

1. はじめに

この自主ゼミは学生自治会公認を受けて開催するものです。各セメスターの履修と修了試験合格に対する単位付与はありません。

この自主ゼミにおける目的は参加学生の皆さんが情報リテラシー (**information literacy**) を完全に体得することです。情報化・デジタル化が高度に進み、同時に不安定性がますます増す現代社会とこれからにおいて、皆さんが目標設定とその達成を出来るのみならず、我が国、さらにはグローバル社会全体に対してリーダーシップを発揮する有意な人財となることを通じ、この難局を乗り切っていくことに貢献するようになることを目標としています。この目標の達成に必須なのが上記の目的の達成に他なりません。

そうした観点からこの自主ゼミでは常に「既存の枠組みの外側」を直視し、それについて自由闊達に議論をして行きます。そうした態度は現代の我が国において典型的なアカデミズムの在り方とは異なる部分があるかもしれませんが、しかし本来の意味でのアカデミズムの姿に直結するものでもあります。その様なものとして受講学生諸君も臨んでもらえればと想います。

この自主ゼミにおける主役はあくまでも参加学生の皆さん一人一人です。 講師である私からの一方通行のインプットではなく、双方向といったレベルを越えて、教室の中でぐるぐると議論が周るような、そんな「知の現場」を創り出して行きます。皆さんの積極的な参加を心から期待しています。

2. Ground Rules

この自主ゼミはいくつかのルールを設定し、それを共通了解として授業を展開して行きます。必ず一読の上、順守してください。

(1) Slack上のグループ「原田武夫 東大自主ゼミ2021年Aセメ」への登録

受講学生は必ず上記Slack上グループに登録して下さい。

→各回の授業に関する連絡は原則としてこのグループ上で行います。

(2) ゼミ長(1名)とサブ・ゼミ長(2名程度)の選任／通年での開催(予定)

双方向の授業展開を可能にし、かつ両セメスター連続での開催を通じた有意義な授業を実現するため、今回は追加的にサブ・ゼミ長を選任します。第3回目の授業の際に決めたいと思いますので「我こそは」と想う学生の皆さんは心を決めておいて下さい。

またこの自主ゼミは原則として「通年」での実施を前提にシラバスを組み立てています。受講学生の諸君もそのことを前提に臨んで下さい。

(3) 作業グループへの所属

第2回目の授業でガイダンスはおおよそ終わりますので、第3回目の授業の中で受講学生の皆さんによる作業グループを編成します。出席人数にもよりますが、おおむね3～8名程度で編成します。作業グループは毎回出題されるワー

クをこなすための仲間たちの集まりです。セメスターを通じて基本的にはメンバーを入れ替えませんので、そのつもりで団結してもらえればと思います。

(4) **授業中の「議論」における基本的な態度**

大学は「自由に意見・見解を表明出来る場」です。したがって以下の態度で他者の述べる論には臨んで下さい。

- Be here now.
- Silence or absence is agreement.
- Consensus is “I can live with it.”
- Make your thinking visible.

→相手に分かってもらうにはどうすれば良いか、これに集中して発言をしてみてください。他者に対して「影響力」を与えるにはどうすれば良いのかを常に考え抜き、発言・行動して下さい。

(5) **Aセメスターから受講開始を行う学生のための夏学期授業の収録動画**

上記のとおりこの自主ゼミは通年で開催を前提にシラバスを組み立てています。他方で秋学期から受講を開始する学生もいることを想定し、昨年(2020年)度実施した講義(全13回)は全て動画として収録し、専用FBグループ上でアップしてあります。これは秋学期から初めて登録してくる受講学生のための理解のための補助手段です。無論、秋学期の講義では夏学期に受講しなかった学生の皆さんでも最低限理解出来る様に話をしますが、「より深い理解」を「最速で得たい」と考えている皆さんはこれら動画を必ず事前に見られるようにしたいと思いますのでslack上で申し出て下さい。

3. **シラバス(各回概要及び指定参考文献)**

(※各講義は毎週水日の14:55～16:40に当座はZOOMにて(大学当局側の判断により第3講以降は場合より体面にて)実施します。)

●**第1講「新規登録学生のためのイントロダクション」**

→夏学期で学んだことをあらためて振り返り、秋学期を展望します。

【参考文献】

・特に指定しません。

●**第2講「本当の過去を知る・米欧各論(その1)」**

→米欧勢を語る際に避けて通れない「ユダヤ的なもの」について考えます。

【参考文献】

・Stephen Birmingham, ”The Grandees: America's Sephardic Elite”

●**第3講「本当の過去を知る・米欧各論(その2)」**

→我が国とロシアとの関係について考えます。

【参考文献】

・イーゴリ・アレクサンドロヴチ ラティシェフ

『ロシア金塊の行方—シベリヤ出兵と銀行』新読書社

●**第4講「本当の過去を知る・米欧各論(その3)」**

→我が国と米国との関係について考えます。

【参考文献】

・迫水久常『大日本帝国最後の四か月：終戦内閣“懐刀”の証言』河出文庫

●**第5講「リーダーシップとイノベーション(その1)」**

→リーダーシップとは何か、その基礎について学びます。

【参考文献】

- ・野田智義他『リーダーシップの旅 見えないものを見る』光文社新書

●**第6講「リーダーシップとイノベーション(その2)」**

→リーダーシップを前提としたイノベーションとは何かについて学びます。

【参考文献】

- ・杉本舞『「人工知能」前夜 ―コンピュータと脳は似ているか―』青土社

●**第7講「アントレプレナーシップとは何か」**

→本当に求められるべきアントレプレナーシップについて考えます。

【参考文献】

- ・磯崎哲也『起業のファイナンス』日本実業之出版社

●**第8講「Make something happenを可能にするために(その1)」**

→他者に対して影響力を与えるということはどういうことなのかを学びます。

【参考文献】

- ・本田哲也『戦略PR 世の中を動かす新しい6つの法則』
ディスカバリー・トウエンティーワン

●**第9講「Make something happenを可能にするために(その2)」**

→我が国固有の政治構造の中でコトを起こすための手法を学びます。

【参考文献】

- ・三宅孝之他『3000億円の事業を生み出す「ビジネスプロデュース」戦略 なぜ、御社の新規事業は大きくならないのか?』PHP出版

●**第10講「未来シナリオとインテリジェンス(その1)」**

→インテリジェンスの世界について、その基礎を学びます。

【参考文献】

- ・北村滋『情報と国家-憲政史上最長の政権を支えたインテリジェンスの原点』
中央公論新社

●**第11講「未来シナリオとインテリジェンス(その2)」**

→未来シナリオの作成を巡るグローバル規模での最前線について学びます。

【参考文献】

- ・Peter Schwartz“**The Art of the Long View: Planning for the Future in an Uncertain World**”

●**第12講「私はこれから如何に生きるべきか」**

→受講学生自身のこれからの人生の設計図を未来シナリオに重ね、考えます。

(※参考文献は無しですが、第12講と第13講の間で講師との間でオンライン

にて対話を各人行い、自分自身の人生に関する「未来シナリオ」を作ってみましょう)

●**第13講「各作業グループによる未来シナリオ発表と2022年度に向けて」**

- 各作業グループより修了試験に変えて未来シナリオを発表、講評します。
(※参考文献は無しですが、年末年始の休暇を用いてグループワークをオンラインで行い、グローバル社会全体から自分自身の人生をつなげた未来シナリオをつくってもらいます。)

【特記事項】

- 2022年2～3月**の間も受講生の希望があれば毎週ないし隔週で情勢アップデートのための「補講」を行います。
●また文理系を問わずデジタル人財になるための講座を無償で冬期休暇中に**4時間×3日(全12講)**の日程にて実施します。参加希望者は**12月初旬にgoogle form**へ必要事項の記入を求めますのでそれをもって申請してください。

.....

（※以下参考:2020年度夏学期における講義概要）

●**第1講「イントロダクション(その1)」**

→今、我が国と世界で何が本当に起きているのかを解説しました。

【参考文献】特に無し

●**第2講「イントロダクション(その2)」**

→第1講で述べた情勢認識を前提にこれから何が必要なのかを論じました。

【参考文献】特に無し

●**第3講「今、私たちはどこに立っているのか(その1)」**

→我が国社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えました。

【参考文献】

・藤井義彦『巨大企業危機』(さくら舎)

●**第4講「今、私たちはどこに立っているのか(その2)」**

→グローバル社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えました。

【参考文献】

・リサ・ランドール『ワープする宇宙』(NHK出版)

●**第5講「今、私たちはどこに立っているのか(その3)」**

→上記2講の考察を前提に国連とその向こう側に広がる未来を考えました。

【参考文献】

・岩間浩『ユネスコ創設の源流を訪ねて』(学苑社)

●**第6講「情報リテラシーとその周辺」**

→今求められているスキルとしての「情報リテラシー」の俯瞰図を論じました。

【参考文献】

・原田武夫『世界のエリートはなぜ、この「フレームワーク」を使うのか』
(かんき出版)

●**第7講「本当の過去を知る・我が国(その1)」**

→知るべき過去として我が国の古代を巡る論を振り返りました。

【参考文献】

・河内春人『倭の五王』(中公新書)

●第8講「本当の過去を知る・我が国(その2)」

→知るべき過去として我が国の中世・近世を巡る論を振り返りました。

【参考文献】

・今谷明『室町の王権』(中公新書)

●第9講「本当の過去を知る・我が国(その3)」

→知るべき過去として我が国の近現代を巡る論を振り返りました。

【参考文献】

・原田武夫『「日本封じ込め」の時代』(PHP新書)

●第10講「本当の過去を知る・米欧総論(その1)」

→知るべき過去として「グノーシス主義」について論じました。

【参考文献】

・大貫隆『グノーシス 陰の精神史』(岩波書店)

●第11講「本当の過去を知る・米欧総論(その2)」

→知るべき過去として井筒俊彦の所論を振り返りました。

【参考文献】

・井筒俊彦『意識と本質』(岩波文庫)

●第12講「本当の過去を知る・米欧総論(その3)」

→知るべき過去としてイラン問題の本質から見える米欧について論じました。

【参考文献】

・高橋和夫『イランとアメリカ』(朝日新書)

●第13講「シンクロシティと未来シナリオ」

→2020年度夏学期で学んだことを振り返りつつ、シンクロシティと未来シナリオの在り方について議論。

【参考文献】

・ジャウオスキー『シンクロシティ』(英治出版)

.....

4. この自主ゼミに関する連絡先

・講師(原田武夫)

takeo.harada@haradatakeo.com

・TA(担当スタッフ)

glu@haradatakeo.com

(了)